JAC北九だより NO.29

テレージョン 社団法人 日本山岳会 北九州支部 Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club 発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局: 北九州市門司区新原町12-27

関 口 興 洋 方

TEL·FAX 自宅 093-382-6436 携帯 090-8919-6776

務帝 090-8919-0 発行人:大 庭 常 生

編集人:関口興洋・伊藤久次郎

平成18年度通常総会

新支部長に大庭前副支部長を選任



新役員の方々

支 部 長	大庭 常生	(11395)	新任
副支部長	大楠 益弘	(13465)	新任
副支部長	伊 藤 久次郎	(13499)	新任
事務局長	関 口 興 洋	(13643)	
委 員	江 頭 精 一	(10448)	
	日 向 祥 剛	(11427)	
	原 広美	(11990)	
	細川 功	(12364)	新任
	西村 信子	(13520)	
	馬場 基介	(13532)	
	山田 武史	(13992)	新任
会計監事	大城戸 昌 敏	(11979)	
	高畠拓生	(13541)	

以上

日本山岳会北九州支部 平成 18 年度 第7回通常総会報告

事務局 No. 13643 関 口 興 洋

五月晴れの下、新緑が目にしみる季節となりましたが、 会員の皆様にはお変わりなくご活躍のこととお慶び申し上 げます。

「JAC北九だより28号」にてご案内しました通り、 4月22日(土)八幡東区の大谷会館で第7回通常総会が 開催されましたので以下ご報告いたします。

議事進行に先立ち、昨年度の物故会員4名の方々のご冥 福をお祈りして黙祷を捧げた。

No. 4294 山村 康一(永年会員)

No. 11090 吉橋 通

No. 13994 楠田 和彦

No. 北地14 磯部 秀樹

総会へ出席された会員と来賓講師の法華院山荘主人弘蔵氏(最前列左端)

○ 会員の状況

本部会員83名、支部会員72名、合計155名

○ 総会出席者

40名、委任状提出者59名、合計99名

○ 支部長挨拶

秦野支部長より、昨年度の最も意義深い事業として、 中央分水嶺踏査が会員の尽力により無事完了したこと につき丁重な謝辞を頂いた。

○ 議長の選出

議長に秦野支部長、副議長に大庭副支部長が選出され、議案の審議が開始された。

○ 議案の審議

第1号議案 平成17年度事業報告

第2号議案 平成17年度収支決算報告

第3号議案 平成17年度監査報告

第4号議案 支部規約改正(案)

第5号議案 役員改選(案)

第6号議案 平成18年度事業計画(案)

第7号議案 平成18年度収支予算(案)

第8号議案 遭難対策活動指針(案)

第9号議案 その他(傷害保険の付保についてのお願い)

第1号議案から第9号議案までの各議案の審議が行われ、各議案が拍手で承認可決された。

○ 記念講演「法華院温泉山荘の歴史と未来」について講師 弘 蔵 岳 久 氏

(有) 法華院温泉山荘 代表取締役

昨年11月、坊ガツルとタデ原が「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」として、国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約に登録されたことを記念して、坊ガツルの主である弘蔵社長に講演をお願いした。

坊ガツルの四季を美しい映像を駆使されながら、九重の変化に富む景観を2時間にわたり解説して頂き、改めて九重の素晴らしさを認識できた。また昨年7月の台風襲来時には、三俣山の崩壊による土石流により、山荘が大変な被害にあわれたことのご報告もあった。

九州の岳人にとり、法華院温泉山荘はメッカであり、 いつまでも存続して欲しいと願うばかりである。

○ 懇親会

会場を移し、新旧支部長以下42名が出席。「九重山」「霧島山」「阿蘇山」「祖母山」の4テーブルに分かれ着席し、秦野前支部長の乾杯の音頭で開宴。大楠副支部長の司会で宴が進行。あちこちのテーブルで旧交を温める人の輪ができ盛り上がった。 以上

新支部長のあいさつ

「支部行事への全員参加」を目標



No. 11395 大庭常生

略歴

若松生まれの若松育ち。昨年、古希を迎えました。平成5年、突然のお声がかりで、急遽北九州市役所を退職して、当時の長野県九州観光案内所に転身。その後、この事務所の変遷に流されつつ、平成16年からは九州と信州の会が運営する「信州観光センター・北九州」で活動中。

今年の支部総会で、三代目の支部長に選 ばれました。

生まれて間もない北九州支部が昨年の中央 分水嶺踏査で立派に支部の役割を果したこと は記憶に新しいところです。先の支部役員会 では、この実績の上に立って、今年は

会員の登山技術の向上、

支部としての遭難対策の具体化、

山岳会としての地域社会への貢献 に取組むことを決めました。この方針に沿 った活動を進めるために皆さんのご協力を お願い致します。

更に今年は

「支部行事への全員参加」

を目標に掲げたいと思います。月例山行や 地域ボランティアや、その他の支部行事等 に年間1回でも自分にあった参加方法を考 え出して欲しいと思います。

皆さんのご支援を心からお願いして挨拶 と致します。

日本山岳会創立100周年記念行事 中央分水嶺踏査最終報告書



北九州支部担当区間 全長 221 キロ 気延 経参加人員 369 人

分水嶺踏査をかえりみて

日本山岳会北九州支部

北九州支部の踏査範囲は山口県と島根県の県境に 位置する「仏峠」から福岡県の平尾台「吹上峠」に 至る全長 221 kmの区間である。

支部の取り組み方針として、まず中央分水嶺踏査委員会を組織し、担当区域を4つのグループに分け、 それぞれのブロック毎に班長を決め、支部会員全員 がいずれかの班に所属する体制を作り上げた。 2004 年4月11日、仏峠に板倉委員長以下18名 が勢ぞろいし、出発式を行った。

吹上峠での完結式は2005年5月8日であった。 以下はブロック毎の報告である。

Aブロック 仏峠~木戸峠 70代先輩の活躍に頭が下がる思い

班長 No.11990 原

広 美



2004 年 4 月 11 日踏査開始 2005 年 3 月 27 日踏査完了 踏査日数 20 日 延べ参加人数 122 名

4月11日、「仏峠〜野道峠」を1班、 2班に分かれてスタート。初めてと いうこともあって、多くの会員が 参加したが、藪漕ぎに慣れず鬱葱 とした樹林帯と進行方向が見えな い背丈ほどのスズタケの中を進む のは勇気のいることでした。

先輩の方から知恵を借りながら 地図とにらめっこし、入山しやす い山域から踏査を始めた。

その結果、藪が深く取り付く林 道も無い難しいところが残り、終 盤が大変であった。

夏季はスズメバチとマムシを避



ヤブコギの渡川にて

けるため活動を中止し、晩秋から 活動再開。

季節の変りは早く秋から直ぐ積 雪期がやってきた。

クマササは積雪があったほうが 歩きやすいが、反面、三角点が確 認できず同じ場所に何回も通った ものでした。2005年は全国的に熊 が多く出没し、歩いていると熊の 爪あとが残っている数本の木を発 見したこともあった。また尾根を 登るときは目標の山がよく見える ので迷うことはないが、下りにな ると、ときには尾根を間違えたり、 また見落としたりすることがたび たびあった。そのような時、GP Sは現在地が確認でき早めに修正 することができる心強い味方でし た。70代の先輩の方々に大活躍し て頂き密集したスズタケの中に全 身で割り込むように入って行く姿

に頭が下がる思いでした。100m進 むのに1時間かかったこともあった。 分水嶺踏査を機会に新しい会員も

増え山口県在住の京都支部会員や 広島支部など他支部との交流もで きた。

今回の分水嶺踏査は北九州支部 にとって大変有意義な事業であっ たと思う。

Bブロック 木戸峠~大ヶ峠 熊の出没に脅えながら、マイカー4000キロを走る!

班長 No.13520 西 村 信 子



花尾山山頂にて

2004年10月24日踏査開始 2005年1月30日踏査完了 踏査日数 11 日 延べ参加人数82名

分水嶺とはなんぞや? 皆さんで近くの福智山に登り、ま ず分水嶺を理解することから始ま った。

担当区域を地図で確認したが、 殆ど未踏の山域である。山口の会 員より山や峠に関する資料を入手 し、道路地図でアクセスの確認。 山口県内を車で2回走り回り峠、 登山口の確認、下山後の車の回収 時間などの算定。1日の歩行距離 をカシミールで計算し、9回で終 了の計画を作成した。GPSの操作訓 練などの準備段階をへて、いよい よ10月24日から踏査を開始した。

その後はほとんど毎週、時には 週2回歩き、予定より2回増えたが 11回で踏査を完了した。

自宅から登山口までの走行距離 は往復で平均270 km。全行程約30 00 km。他ブロックの応援を含め ると4000 k mに達した。主人も会 員ですので、全行程行動を共にし、 帰途は睡魔と闘いながら交代で運 転したものです。

普段の山行は藪漕ぎなどのない 整備された登山道がほとんどでし たが、今回踏査に参加し地図、コ



木に登って方向を確かめる

ンパスを駆使し、鉈、鎌、鋏を持 って山に入る貴重な経験をした。 また、九州では見られない「熊注 意」の看板に出会い、実際に熊が 捕獲された話など聞くと身震いし たものです。峠には必ずと言って いいほどお地蔵様が祀られていた。 昔の旅人の信仰心を垣間見た思い です。

台風の影響で林道が崩壊し、風 倒木で前途が塞がれ難儀したこと もあったが、今となってはいい思 い出である。皆さんの協力のお蔭 で踏査も無事終了し、創立後まだ 日の浅い北九州支部としては、会 員同士の結束力が培われたことと 思われる。

Cブロック 大ヶ峠〜壇ノ浦 読図の大切さを痛感!

班長 No.13533 磯 野 文 雄



Bから応援も駆けつけ踏査完了(中峠

2004年5月5日踏査開始 2005年4月14日踏査完了 2006年2月19日、21日に一部 再踏査を実施 踏査日数22日

踏査日数 22 日 延べ参加人数 109 名

担当区域は大ヶ峠から一位ガ岳、 鬼ガ城を経由して、下関の壇ノ浦に 至るコース。地図で確認したがほぼ 全域が里山で道標も無く困難が予想 された。また、北九州支部の会員の 大半は九州地区の山域には詳しい が、山口県の里山はほとんどが未知 の山域である。このため、各担当者 が事前に入山地点と下山地点の確認 を行い、かつ町役場や教育委員会に 問い合わせて、コースの状態や熊 の出没状況を確かめた。

また偵察のための山行を重ね、 実際に地元の住人にコースの状態 を尋ねて、入念な計画をたてた。 併せて、下関山岳会の会員が全面 的に協力してくださり、資料送付 や実際の道案内をして頂いた。改 めて感謝の気持ちを捧げたい。

さて、実際の踏査では、コンパスと1/25000地形図を駆使しながらの山行となった。錠や鎌を持っての藪漕ぎで疲れ、コースからの逸脱で何度も後戻りした。特に、下りのコースでは、地図とコンパスの向きを完全に一致させていて

も、下る尾根を間違え、辿り着いたら「想定外」の集落だった、というケースが度々あった。改めて、 読図の大切さを痛感した。

又山口県内では、「大峠」と書いて」「おおたお、おおがたお、おおがたお、おおがたお、おおら」と呼ぶ場所が70箇所以上もある。峠を「たお」というのは中国地方に広く分布する古い呼び名で、旅の安全を祈って、手向けているところが峠(たお)である。地図上の峠のふり仮名は、ほとんどが「たお」となっている。地元の人も「たお」、「とう」、「だお」と言ってるようです。

Dブロック 壇ノ浦〜吹上峠 問題提起できたカルスト台地

班長代行 No.13471 板 倉 健 -



2005年3月6日踏査開始 2005年5月8日踏査完了 踏査日数7日 延べ参加人数56名

担当区域は北九州市の市街地に接しているためA、B、C ブロックに比べアプローチが短く、短期間で効率的な踏査ができた。砂利山周辺には野犬が集団で徘徊する危険な場所もあり、また和布刈~風師山までの標高100~300mの里山は藪漕ぎもあり

地形が緩やかで分水嶺を探すのに苦労した。竹林も多く、猪が好物のたけのこを掘り返した跡が目立った。 都市近郊であるが自然林で覆われているため猪が多いのが特徴。

2005年3月20日、風師山手前の尾根で福岡県西方沖地震に遭遇。風師山には慎有恒元会長の歌碑がある。鹿喰峠付近はかなりの藪であるが、戸の上山の稜線に取り付けば足立山までは企救自然歩道である。

湯川から志井までは紫川水系と竹 馬川水系が市街地に入り込んでおり 水系を横切らないように慎重に歩い た。志井~貫山は尾根が入り組み枝 尾根も多く分水嶺を判断するのに苦 労した。本部の分水嶺データによる と、貫山からは広谷~P568,7~平尾 ~平尾台~竜ヶ鼻となっている。北 九州支部では貫山~四方台~大平山 ~吹上峠の尾根を合理的な分水嶺の 地形と判断し踏査した。本部に問題 提起し、北九州支部の見解につき諒 承して頂いた。専門家によればカル スト台地では分水界のみ存在し、分 水嶺を地形図で特定するのは困難と の見解で、全国で平尾台のカルスト 台地のみとのこと。踏査を担当し、 このような問題を提起できたことは 大変有意義であった。その後、本部 より本州と九州を線で繋ぎたいとい う要請があり、関門国道トンネル(人 道)を歩いたことを報告します。

2005年5月8日、平尾台のキャンプ場で支部長、副支部長の出席の下、盛大な完結パーティを挙行し、今回の踏査が無事終了したことを祝った。 全参加者のご協力を心より感謝申し上げます。

(A, B, C, Dブロック合計) 延べ踏査日数 60 日 延べ参加人数 369 名 編集文責

事務局(13643 関口興洋)

中央分水嶺踏査参加者名簿

(本部:	会員41	名)	$1\ 3\ 7\ 3\ 9$	片 山	礼子
$4\ 3\ 2\ 5$	秦野	一彦	$1\ 3\ 7\ 4\ 3$	橋 本	建一郎
$1\ 0\ 4\ 4\ 8$	江 頭	精一	$1\ 3\ 8\ 0\ 4$	横山	洋 子
$1\ 1\ 3\ 9\ 5$	大 庭	常生	$1\ 3\ 8\ 1\ 0$	西 村	俊 二
$1\ 1\ 4\ 2\ 7$	日 向	祥 剛	$1\ 3\ 8\ 1\ 2$	吉 岡	千津子
$1\ 1\ 4\ 5\ 4$	井 上	佑	$1\ 3\ 8\ 1\ 9$	太田	満
$1\ 1\ 4\ 6\ 7$	篠田	勝 行	$1\ 3\ 9\ 8\ 3$	森永	義忠
$1\ 1\ 9\ 9\ 0$	原	広 美	$1\ 3\ 9\ 8\ 6$	室 津	健 次
$1\ 2\ 3\ 6\ 4$	細川	功	$1\ 3\ 9\ 8\ 7$	宮城	尚志
$1\ 3\ 4\ 6\ 5$	大 楠	益 弘	1 3 9 9 1	中 村	昭彦
$1\ 3\ 4\ 7\ 1$	板 倉	健 一	1 3 9 9 2	山田	武 史
$1\ 3\ 4\ 9\ 9$	伊 藤	久次郎	$1\ 3\ 9\ 9\ 4$	楠田	和彦
$1\ 3\ 5\ 1\ 4$	橋 本	美 和	$1\ 4\ 0\ 4\ 5$	池田	暁 彦
$1\ 3\ 5\ 2\ 0$	西 村	信 子	$1\ 4\ 0\ 4\ 6$	高城	季美子
$1\ 3\ 5\ 2\ 3$	浜 松	礼子	$1\ 4\ 0\ 5\ 1$	三木	靖子
$1\ 3\ 5\ 3\ 0$	浦 田	和 夫	$1\ 4\ 0\ 7\ 9$	内藤	正美
$1\ 3\ 5\ 3\ 2$	馬 場	基介	$1\ 4\ 0\ 8\ 0$	原野	幸雄
$1\ 3\ 5\ 3\ 3$	磯野	文 雄	$1\ 4\ 0\ 8\ 1$	塩 屋	薫
$1\ 3\ 5\ 3\ 4$	舛 木	隆	/ F. Jura	.	** \
$1\ 3\ 5\ 4\ 1$	高畠	拓 生	(支部会	会員13	
$1\ 3\ 6\ 4\ 2$	末 吉	史 忠	北九249	三 坂	武 夫
$1\ 3\ 6\ 4\ 3$	関 口	興 洋	北九348	立 野	卯三男
$1\ 3\ 7\ 2\ 2$	藤田	傳	北九359	八木	国子
$1\ 3\ 7\ 3\ 8$	片 山	俊 昭	北九361	立石	サツミ

2006年3月30日日本山岳会北九州支部

北九362	佐藤	照 美
北九372	山下	定 治
北九373	山下	富美子
北九379	坂 本	千佐子
北九385	藤山	辰 乃
北九386	室 田	安 代
北九388	大 井	銀子
北九389	森本	信 子
北九390	八木	励

(日本山岳会京都支部5名)

 9763
 伊藤 禎洋

 9765
 林 一夫

 10661
 石田 隆 遠

 13763
 金光 康 資

 中島 篤 巳

(非会員9名)

重宗 走夫 百新田道 子 音三木順留三 新角田 やヨ 中富 子 木 村ヤヨ 年 藤 トモエ

4月支部山行

6回のボランティア山行による

雁股山~野峠間の現在地確認看板設置・犬ヶ岳風倒木伐採登山

No.13520 西村信子





6回の山行で設置完了した標識の前で記念撮影

1回から6回の参加者(13名)

11979 大城戸昌敏、11990 原 広美、 13520 西村信子、13643 関口興洋、 13810 西村俊二、13819 太田 満、 13991 中村昭彦、13992 山田武史、 北九359八木國子、北九386森本信子 豊前市役所・清原さん、吉田さん、 古原さん

豊前市役所からの依頼が発端

支部の野美会員がお正月に干支の つく犬ヶ岳に登り、風倒木があり、 その処理のことで市役所のかたと話 しをすると、看板のことが話題にな り、事務局のほうへ話を持ってきま した。

3月9日、豊前市役所の観光課へ 関口事務局長に同行。看板は①~⑧ まですでに用意されており、市役所 配布の求菩堤山・犬ヶ岳山岳マップ に設置場所が記入されていました。 丁字の形をした看板は縦31 cm、横6 0 cm、長さ180 cmあり、結構重い。 笈吊岩の鎖場のところが大変だなと、 まず頭に浮かんだ。

効率よく行動するには、まず下見をしてGPSで設置場所の緯度、経度を確認し、林道が通っているので市役所の方に協力してもらい、林道を利用する。ということになりました。関口さんとお別れしてから、雁股峠の登山口の確認に車を走らせました。



GPS活用し設置場所特定

第1回目、3月12日(日) 雨時 々小雪のち曇り

道の駅「おこしかけ」に8時過ぎ集 合。今日の参加者は5名。雁股峠~ 雁股山~古峠を縦走する予定なので 主人にサポート隊として残ってもら い、小雨のなか9時25分出発。中村さ んが①の看板を持って先頭を歩く。 早いので追いつけない。結局1人で 運んだ。ご苦労様でした。山頂まで は道もよく整備されており、落ち葉 を踏みしめながら歩きました。天気 が悪いので、GPSの作動はよくないが、 ①の設置場所は東峰の山頂なので茂 みに看板を隠し、木に目印を付け、 西峰~古峠へと縦走して②の位置を 確認する。雨がみぞれとなり、雪が ちらつき始めた。台風の影響で木々 が倒れており、山肌が痛々しい。14 時に古峠に着き、小1時間林道を歩 き、無事サポート隊に出会い、②の 最短ルートの道を確認して、16時 半、「おこしかけ」で解散。

| ①②③を設置~順調!|

第2回目、3月17日(金)晴れ 今回はいよいよ設置とのことで、市 役所の方に同行してもらい、8時半 「おこしかけ」出発。今回はサポー ト隊として市役所の方2名を含めて

10名。峠に着き、山芋掘りの道具、 速乾性のセメント、水を持ち、9時 半出発。 10 時半山頂到着。早速、G PSで位置確認。晴天なのでGPSも良好。 40~50 cm穴を掘り、看板を立て、 セメントを練り、小石を間に入れ、 流し込んで出来上がり!! 来た道 を引き返し、林道を通って移動。植 林の中に付けられた作業道を進み、 鹿ネットをくぐって②のポイントへ。 設置し、また、戻る。時間も早いの で③も設置しようとサポート隊に連 絡し、車高の高い車を用意してもら い、許可車のみ通行可の古峠へのゲ ートを通り、古峠に到着。経読岳へ の道を進み、岩場を通過し、③のポ イントへ。皆さん、慣れてきて、GPS で位置確認、穴を掘る、小石を集め る、セメントを練る、流し込むと役 割分担も自然と決まり、作業も早い。 八木さん、森本さん達の慣れた手付 きに感心しました。

夫婦で下見登山

第3回目 3月21日(火)曇り 夕方より雨

⑤~⑧の野峠~一の岳~笈吊峠間 の下見を主人と2人でする。車が1 台なので今日はピストン。8時53 分出発。⑧は野峠、⑥は一の岳、⑦ はその途中。GPSを借り、地図を片手 にポイントを測定。展望もよく、由 布岳や九重の山並みがくっきりと見 える。予定は犬ヶ岳までだったが順 調に進み、欲を出して⑤のポイント まで測り、ついでに今回の看板設置 の最大の難所である笈吊岩の鎖場の 状態の確認のため、下る。ここまで 4時間。笈吊峠で一休みし、また上 る。途中、林道の道調べのため、⑦ のポイントより野峠まで林道を歩く。 やはり普通車では無理なようだ。林 道歩きのころから雨が降り始めまし たが、どうにか16時半に今日の下 見終了。

| ④~⑧の設置場所確認

第4回目 3月24日(金)晴れ 天気がいいというので急に思いつき、 笈吊峠〜経読岳間の下見に行く。シャクナゲの時期は満車の状態だろう が今日は我々の車のみ。道すがら、 アブラチャン、今は葉のみだがキツネノカミソリが群生している。花の 時期が楽しみ!!

21日の続きで笈吊峠からスタート。

シャクナゲの木のトンネルをくぐり、 黒仁田峠に着く。この間、昨年の台 風の影響で随分倒木があり、道をふ さいでいる。峠で位置確認。これで ④から⑧の設置場所の確認作業は終 了。ついでに経読岳まで歩き、3等三 角点を確認。黒仁田峠まで戻り、林 道らしき形跡があるので車ですどが 近くまでは無理なようだ。15分ほど 歩くと経読林道に出た。それから30分、笈吊峠入口の分岐までテクテク と歩く。車は1台増えていたが、山中では誰とも出会わなかった。静かな 下見山行でした。

⑧の野峠で全行程完了!

第5回目 3月27日(月)晴れ 今日は④~⑧の設置予定。8時半「お こしかけ」集合。今日の参加者は市 役所2人を含めて8名。市役所提供 の車高の高い車、2台に分乗。許可 車のみ通行可の林道へと入り、④の 黒仁田峠へ。設置後笈吊峠入口の林 道へ移動。今回の最大の難所である、 かって山伏たちが背負っている笈を 吊り上げたり、吊り下げたりして通 ったという笈吊岩を無事、通過。昼 食後、また林道を移動し、⑥の一の 岳へ。皆さん、慣れて手早い。移動 し、林道より20分登って⑦の予定場 所へ。いよいよ最後の⑧番の野峠へ と移動。15:45、終了。全行程を終 え、コーヒーで乾杯。「おこしかけ」 に戻り、解散。

15本の風倒木を伐採!

第6回目 4月17日(月)晴れ JAC便りに4月15日で掲載してい ましたが、雨のため、延期。今回は 6名。犬ヶ岳の駐車場に9時集合。 鋸を片手にうぐいす谷より歩く。犬 が2匹、道案内をするかのようにつ いてくる。笈吊峠の林道までの間に 5本。太田 満さんがチェンソーを 持参したので、作業が早い。山頂ま で登り、昼食。犬も一緒。岩場は巻 き道を通ったようだ。関口さんが水 をあげると美味しそうに飲んでいる。 先客の夫婦連れが下山すると1匹は 一緒に降りて行った。恐淵コースへ と我々も下山。もう1匹の犬も一緒。 9本を処理する。計15本の風倒木伐 採。犬はいつの間にか先に下りたよ うで下山し、求菩堤庵に聞くと、そ この飼い犬とのこと。山に登りたく

て、駐車場で待ち構えているという。 15時、駐車場着。本日の作業、終了。

入浴後の一杯を我慢し帰路へ

6回、豊前に通いましたが、今回





やっと「卜仙の里」で入浴タイムを 取ることができ、汗もかいたし、き れいさっぱりして帰途につきました。 風呂上りの1杯が欲しいところでし ょうが、各自、車なのでぐっと我慢 をして・・・・

福岡から高速を使って、また、 下関から関門トンネルを通ってボラ ンティアに参加してくださいまし た。本当にご苦労様でした。あって はならないのですが、これでもし山 中で事故などがあっても現在地確認 看板で、救援がスムーズにいくことで しょう。風倒木も処理したので、楽し い山歩きが出来ることと思います。

(この行事については、豊前市役 所のホームページにも写入りで紹 介されています。)

4 月支部山行

カタクリの冠山(1339m)山行記

No.14079 内藤正美



4月29日、一行24名で広島県 吉和の冠山に向かう。参加者の集合 が早いのとマイクロバスの運転手さ んの右足がやや力強かったせいか、 予定より30分早く登山口の潮原に 到着。カタクリ鑑賞の団体が多い。 のんびりと谷筋の登山道を進むが、 せっかくなので途中よりクルソン岩 を経由して山頂着。約2時間予想ど うり狭い山頂は登山者でいっぱい写

真を撮りすぐに昼食場所に向かう。 北西になだらかな谷(カタクリが多 い)を下ろうとしたが、思わぬ積雪 であきらめる。今年は雪が多かった のと3月があまり気温の上がらなか ったせいであろうが例年無いことで ある。これではカタクリは期待出来 ない。寺床への途中で昼食、日向さ ん持参のシャンパンで乾杯。のんび り談笑し、広島、島根、山口3県の 県境、後冠山へ行く。雪の無いとこ ろは葉はたくさん見られるものの花 はなし。僅か数輪見つけられただけ で期待はずれであった。 1週間以上 早すぎた。下りは松の木峠へ降りる。 途中小雨に合うが急坂を全員無事下 山。 1時間程度予定より早いので、 登山口の潮原温泉で入浴。650円 は少し高いのでは? 帰りの車中、 日向さんより3県境のバンダナ2枚 提供あり争奪戦の結果片山さん、浜 松さんがゲット。カタクリ鑑賞は出 来なかったがたのしい山行でした。 リーダーの原さんお疲れさまでした。

5月支部山行

花と新緑の浅間山〜岳滅鬼を縦走

No.13534 舛 木 隆

5月連休明けの8日(月)、日田 彦山線の筑前岩屋駅頭に揃ったの は、善男善女7名の小グループ。西 村リーダーの元気な第一声に気合を 入れて、9時5分に出発しました。

入れて、9時3万に山光しました。 浅間山 832mには標高差590m、 30 分余の林道を上って登山口に着 く。これからは真上 に向けて、樹林の急 登攀になります。立 ち止まり汗を拭いつ つ、頂を目指します。

頂上直下から石楠 花やみつばつつじが



岳滅鬼山山頂にて

顔を見せ始めて、喘ぐ息遣いを励ま してくれます。11時、浅間山頂に立 つ。北方はガスに包まれていますが、 南面は眺望が開けていました。

一旦下って、浅間山・谷コースの 分岐点を経て、杉木立などのだらだ ら登り。やがて釈迦岳からの縦走路 に交わる。これからはブナなど自然 林の中を、芽吹いた新緑の息吹を吸 い込みながら、緩やかな尾根歩きに なります。

「石楠花自生地」の標識につれて、 8部咲きのピンクの花弁が、目を楽 しませてくれます。つぼみの赤褐色 との調和がよい。12時30分、なだ らかな岳滅鬼1037mの山頂で昼食を 摂る。

元気を取り戻して、今日の最高点 10 40 mの狭い頂点に至る。これからは急転直下の岩場になって、ロープや木梯子・木の根を頼りに慎重に下る。振り返ると眼前に鋭鋒が目に映る。

14時、岳滅鬼峠。「従是北豊前國小 倉領」の石碑が立つ。この間、石楠花 やみつばつつじが、今が盛りと咲き誇 っていました。

下るほどにガスが濃くなっていきました。鬱蒼とした長い樹林帯を黙々と行くと、やがて流れにぶつかる。前日の雨で増水して、渡渉に少々難儀しました。岩場の下りや瀬渡りで、ちょっとしたスリルも味わいました。朝から、一組のカップルに出会っただけの、静か

な歩きが気に入りました。

しゃくなげ荘に 15 時 10 分着。温 かいお湯に浸って、朝からの疲れを 癒しました。

リーダーの西村さんご夫妻にはお 世話になりました。同行の皆さん有 難うございました。

参加者

CL:13520 西 村 信 子 SL:13810 西 俊 村 13499 伊 久次郎 13534 舛 木 降 13992 山 \mathbf{H} 武 史 14045 池 田 暁 彦 会友 伊 藤 トモエ (計7名)

単独行記

背振山系 全山縦走5日間!

No.. 13992 山 田 武 史



福吉駅下車。縦走スタート

予でより、「背振山系全山縦走」を計画し、昨年は、各スパン毎に日帰りで縦走路を歩き、下見を重ね、線で繋がった故この縦走路、つまり、西の十坊山(とんぼやま)から、東の若杉山まで一気通貫で、歩く事を決心し、週間天気予報を見ながら、5月1日をスタート日と決め、最終準備に入った。

果たして、何日間で歩けるのか。 5日なのか、6~7日なのかによっても食料も変わってくる。安全をみれば、荷は重くなる。私の持っている最大のザック70リッターに、テント、シュラフ、コンロ、雨具、下着類、食料、水(3.5L)、洒、ウイスキー等を入れようとしたが、予定量が入らない。

さて、何を削るか。 - 必要最小限 にしてザックに収めたが、重量は、 それでも 20 KGになった。 部屋で背負って見ると、結構重い。 果たして歩けるのかなとの不安も心 によぎったが、「まあ、楽しく行こ う」との気分で、前夜は、早めに就 眠。

<u>第1日</u> <u>5月1日(月)</u> <u>快晴</u> 08:00 家出発。09:30 JR唐津 線福吉駅 登山スタート

十坊山ー[白木峠] ー浮嶽ー 「荒谷 峠] ー女岳ー真名子キャンプ場泊 ○福吉駅より、十坊山に行く道は、 途中まで車道故、気分が乗らない。 そして、20KGの荷が肩に食い込んで 来る。

○浮嶽の中腹にて、昼食のおにぎり 2個にて、チョッと元気出る。水分 補給は小刻みに。晴天故に、発汗量 もすごい。

○女岳頂上到着は14:50 と、まだ日は高かったが、この時点での水消費は、1.7Lと随分飲み、水の補給が必要となった故、今日は無理をせず、縦走路から40分外れるが、女岳麓の、真名子キャンプ場でテント張る事とした。

○キャンプ場に、16:00 到着。このキャンプ場は、未オープンにて、私一人の独占。野鳥のさえずり、そよぐ柔らかい風を受け、ビール、酒、ウイスキーにて幸せなひと時を過ごした。

05:30 起床 06:50 真名子キャンプ場を出発

[荒川峠] -羽金山-[長野峠] -雷山-井原山- [三瀬峠] -山中キャンプ場泊

○この日は、朝から、濃霧、小雨そ して強風と、前日とは打って変わっ ての悪天候に、終日悩まされた。

○挙句に、楽しみにしていた井原山 の三つ葉ツツジは、まだ蕾。今年は 矢張り遅い。

○肩は、相変わらず痛い。登り及び下り坂では、脚力に神経が行く故、肩の痛みは遠のくのだか、平地になると痛みを強く感じる。 40~50分で5分程の休憩を取り、水とチョコレートを口に入れる。

○井原山通過が15:20と、予定より遅れている故、今日の泊は金山麓の山中キャンプ場に定め、必死に歩く。

○山中キャンプ場到着は、19:00。(途中で、道間違えたと思い、引き返した事もあり、20分ロスした)

○すぐ、テント張り、20:00 にテントの中で夕食。風は、相変わらず強く、ゴウゴウと不気味な音と、突風



九千部山にてテント泊

にテントが飛ばされるのではないか と、夜半まで、よく眠れなかった。

<u>第3日</u> 5月3日 (水) 快晴 05:30 起床 07:00 山中キャン プ場を出発

金山一[小爪峠] 一鬼ガ鼻岩一[椎葉峠] 一背振山一蛤岳一[坂本峠] 一[七曲峠] 一[三領境峠] 一九千部山泊

○昨日とは、打って変わっての晴天 にて、風は強かったが雨は無かった 故、テントは濡れていない。

キャンプ場には、私以外に、テント一張りとバンガローの客一組のみ。 但し、明日は、バンガロー満杯になる由。管理人未出勤にて、テント代 至200支払えなかった。

- ○ゆっくりしたペースで、金山(967 M)の山頂へ。
- ○鬼ガ鼻岩辺りから、登山客が多くなる。又、三つ葉ツツジも満開。石楠花も1~2本咲いていた。



○背振山キャンプ場を 12:00 に通過 時点で、本日のテントを九千部山と

決め、水を満タンにして出発。

- ○七曲峠からの登りはきつく、肩の 痛み、股ずれの痛みも加わり、必死 の登行だったが、この山はシロモジ の群生があり、植物観察で、気を紛 らわせた。
- ○九千部山に 17:40 到着。山頂の芝生にテント張る。山頂まで車道延びており、ドライブ客は、まま、あるが登山者は誰もいない。又、この空間を独り占め。酒、ウイスキーも最高にうまかった。
- ○本日の歩行距離は、約21 KM。(尚、 メンソレータム、エアーサロンパス で体の手当てした)

<u>第4日 5月4日(木) 快晴</u> 05:30 起床 07:00 九千部山を 出発

[大峠] ー [柿の原峠] ー基山ー天拝 山ー西鉄二日市駅ーー電車/タクシー ーー電神社ー宝満山キャンプ場泊

- ○柿の原峠越えの民家で、水を貰う。 地下水にておいしかった。
- ○大宰府にて、食料とビールを仕入 れる。(元気が湧いてきた)
- ○竈神社からの登りは快調にて、宝 満山キャンプ場には、17:00 到着。

今夜が最後のテント泊となる。今日 までの無事を祝って、一人で乾杯した。

○本日の歩行距離は、約23 kM。



第5日 5月5日(金) 快晴 05:40起床 07:00 宝満山キャ ンプ場を出発

宝満山ー三郡山ー砥石山ー[ショウケ峠] ー若杉山ー若杉集落ーーバスーーJR篠栗駅

○いよいよ、最終日です。コースは、 歩きやすく、ついつい気が緩みがちですが、気を抜くと怪我のもと。

今一度気を引き締めて、若杉集落 まで下りて来た。 13:00 到着。

○篠栗駅裏の、オアシス篠栗にて一 風呂浴び、JR篠栗駅より、電車/地 下鉄にて16:00 無事帰宅です。

略、天候にも恵まれ、楽しい5日 間でした。ありがとうございました。



終点の篠栗駅で遂にやった~。

由布岳東峰(1,582m)登山記録(標高差802 m)

No.14081 塩屋 薫

期日

平成18年3月4日(土) 天候

快晴 微風 気温3~6度 登山コース

正面登山口~日向自然観察路~東登山口分岐~東峰~正面登山口 参加者:

C L 中村、矢野、塩屋(前泊:湯 布院中村学園宿舎) 登山記録

正面登山口発(8:50)、ゲートから右へ日向自然観察路へ向かう(9:04)雑木林のダラダラとした、緩やかな登りが続き折角高度を稼いだのに4回程下っては登りのアップダウンをして猪の瀬戸着(9:57)。日向

山への分岐の道標を右に見て登り、 東登山口からの道と出会う(10:00)。 標高 1065 m。山頂まで 1,620m、 1時間50分の標識あり。ここより ジグザグした九折の急登となる。2~ 3 c mの残雪あり。途中ロープにす がりながら登る。第1鎖場をよじ登 る(11:20)。5年にメッキの新し いのと取替え。積雪あると大変に苦 労すると思う。短い第2鎖場(1,5 30 m) を登る (11:35)。この辺 から霧氷がつき、きらきらと輝いて 綺麗でした。お鉢回りの西峰からの 道と出会い(11:40)、左に行き最 後の低く狭い雑木林の間を登りやっ と東峰に登頂した(12:00)。頂上 周辺も霧氷がついていた。天候快晴

で360度の眺望は素晴らしく、九重連山、祖母、傾、湧蓋山、鶴見、高崎山が望遠され、疲れもいっぺんに吹き飛んだ。風もなく山頂にて昼食後、正面登山口に向かう(12:50)。またえ(1,470 m)着(12:57)。大きなジグザグした道を下り合野越(1,025 m)着(13:59)。岳本の西登山口への道標を右に見て下りゲート(トイレあり)着(14:25)。正面登山口に無事下山した(14:36)。天候に恵まれ最高の山行でした。

タイム:登り3時間10分、下り1 時間46分。

帰路に日本 100名 湯の東椎屋の滝 (高さ65 m) を見物、水量も豊富 で見事でした。津房温泉で入浴し(2 70円)、下関に帰着(20:10)。

(注意) 50号線は土砂崩れで通行出 来ない。

以上

冬期ローツェ南壁登山隊 2006 への募金のお願い

支部関係の皆様におかれましては、日頃は何かと支 部に対しましてご支援、ご協力を賜っていますことに 衷心より御礼申し上げます。

さて、すでに承知置きの通り、東海支部では、今冬 3回目となるローツエ南壁へ登山隊を派遣いたすこと になりました。

つきましては、甚だ勝手なお願いと存じますが、世 界的にも高い評価を得ています冬のローツエ南壁登攀 を支援するために、下記の要領にて募金をさせていた だくことにいたしました。

是非とも、支部員・支部友の皆様方には、絶大なる ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。 日本山岳会東海支部 支部長 寺 西 申 生

記

- 1. 募金額 1口 5,000円以上
- 2. 募金期間 平成18年4月1日~12月31日
- 3. 募金予定金額 200万円

<郵便局>

4. 振込先

加入者名 日本山岳会東海支部 口座番号 00800-5-13749

◇◇◇報告・お知らせなど◇◇◇

全会員保険加入のお願いと報告

過日の総会で案内しましたように、支部会員全員が 何らかの保険に入って頂くことになりました。未加入 の会員は、至急ご入会下さい。

尚、手軽な保険としてスポーツ安全保険があります。 本日現在、スポーツ安全保険に加入している方々は次 の通りです。(順不同)

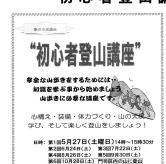
浦田和夫 末吉史忠 秦野一彦 中村 碧 丹下 洽 丹下香代子 門司節子 常守貞子 田中 俊 藤田 傳 大楠益弘 馬場基介 岩村瑛雄 計13人

この保険の内容は、

死亡 2000 万円 後遺障害 3000 万円入院月額4000円 退院日額1300円 賠償責任1人1億円、 1件5億円 突然死160万円 となっています。

加入希望者は、大楠 (090-3196-8939) 又は、 馬場 (093-371-8656) まで

初心者登山講座の開催



当支部は、地域貢献事業の一環として市民講座「初心者登山教室」を開催することになりました。 内容は次の通り。

講座名「初心者登山講座」 日 時

第1回 5月27日(土) 第2回 6月24日(土) 第3回 7月22日(土) 第4回 8月26日 (土)

第5回 9月30日(土)

第6回 10月28日(土)

時間は 14 時~ 15 時 30 分。第 6 回目は、門司区 の山に登山します。

場所 門司区原町別院 大里南市民センター TEL 391-5591 FAX 391-5592

費用 無料

講師 当支部より派遣

実行責任者 大楠益弘 (No.13465)

募集人員 20名(20歳以上)

※ 当支部で参加希望があれば大楠まで

 $(TEL\, 090 - 3196 - 8939)$

救命ボランティア技術習得研修会のお知らせ

登山者の遭難時や災害発生時などの救護活動を支援 するための技術習得研修を次の要領で行います。奮っ て参加下さい。

特に森林保全巡視員の方々には都合をつけてぜひ申 し込んで下さい。

要領

日時 7月8日 (土) 13:00~16:00

場所 門司区大里高田1-20-1

門司体育館 TEL 093-381-6445 インストラクター 北九州市門司消防署 救急隊員

申込先 大楠益弘 (090-3196-8939)

馬場基介(093-371-8656)

締切 5月31日

※ 研修会参加者には、消防署より「普通救命講習修了書」が交付されます。

会員異動

転籍

本部会員 No.11842 人 見 五 郎 宗像市 (本年4月19日付、福岡支部より北九州支部へ)

新会員

本部会員 No.14258 下 道 利 治 宇部市 退会

本部会員 No.12567 河 野 孝 弘 直方市 物故

本部会員 No.11090 吉 橋 通 飯塚市



山行計画のご案内

6月の山行

① 岡山・鳥取県境に横たわる那岐連峰

那岐山(1250m)「岡山県奈義町」6月10日出、11日(日)

キャンプ場にてテント泊

集合時間 10 日 9:00

(山口会員は9:30 玉姫殿前の駐車場)

集合場所 門司駅

(駐車場は門司駅裏サッポロビール工場跡地)

マイカー 下関IC~津山ICまで高速→奈義 町高円まで国道53号

コース 登りCコース 下りBコース 行程4時間15分

費用 実費 約8,000円位(下関IC~津山IC高速)

申 込 原広美 0832-45-5490 FAX又ははがき

〆 切 5月10日 (締切済み)

7月の山行

お休み

8月の山行

<u>真夏の滝と渓谷を散策</u>



岳切渓谷・西椎屋の滝(8/6)

(大分県宇佐院内町)

- 1.期 H 8月6日(日)
- 6日午前8時 小倉駅北口KMMビル前 2.集
- 3. 行 程 北九州都市高速~椎田道路~国道 10号~ 国道 387~岳切渓谷駐車場 10:00~11:30 西椎屋駐車場11:45、120階段往復

- 4. 携行品 雨具、水筒、弁当、着替え他。
- 1.費用 2500円

(20人参加の時)マイクロバス予定。

- 6. 締 切 7月20日まで
- 7. 申 込 大城戸昌敏093-612-7476 馬場基介093-371-8656

なお、川の中を歩くので草鞋など持参すればなおよし。 初心者でもOK

9月の山行



夜空の星を眺めながら 坊ガツルでテント泊(9/23.24)

- 1. 期 日 9月23日(土)~24日(日)
- 2. 集 合 門司駅北口 7:30
- 3. 交 通 マイカー;国道10号線→道の駅おこしかけ →耶馬溪→吉部
- 4. 費 用 5,000円位

(食費と交通費 人数により変動あり)

- 5. 日 程
 - 23日(土) 吉部~坊がツル(1:30)テント設営後、 立中山往復~法華院温泉入浴後夕食
 - 24日(土) 三俣山南峰直登~主峰~北峰~雨が池 コース出合い~坊がツル テント撤収後 下山
- 6. 締 切 9月1日
- 7. 連絡先 fax tel (0832) 45-5490 原 広美 又はハガキ

サロン ルーム

毎月第4水曜日

5月のサロンは、24日(水)

6月のサロンは、28日(水)

時間 午後6時30分から 場所 小倉北区魚町「コール天」

(魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)

費用 3,000円前後(ワリカン制です)

編集後記

○今月は、久しぶり 12 ページとなり ました。沢山の原稿をお寄せ下さりあ りがとうございました。山行記だけでなく、山に関するも

のなら何でも結構ですからドシドシ原稿をお寄せ下さい。 お待ちいたしております。

○春になると総会やら展覧会やらいろいろ行事が多くなり ます。私も展覧会の準備で作品制作中です。今月は東京、 来月は福岡市で太平洋展があります。どうぞ見に来て下さい。

○山の原稿は、事務局(関口事務局長)又は 〒826-0032 田川市西平松11-8 伊藤久次郎宛。 TEL/Fax 0947-42-2772

Eメール原稿は、nkchb785@ybb.ne.jp です。